情報システム学に基づいた情報システム入門教科書のご紹介

情報システム学会　理事　渋谷照夫

ＩＳＳＪ会員の皆様、ご承知のように、当学会では、情報システム学を標榜しており、序説を 2014 年に発刊し、改定版（電子書籍）を 2022 年度に発刊予定です。人間中心の情報システムの定義とその歴史、概念、実践、人材像などまで解説しております。
昨今、ＤＸ化、ＡＩ活用などのキーワードが多くのメディアに頻繁に出現しており、また、実際の情報システム構築、運用現場でもアジャイル、ローコード、ＯＳＳ活用などの手法やツールによる効率化や自動化の動きも活発化しております。
このような環境変化の下でありますが、「人間中心の情報システム」の概念や仕組みの有効性や価値を重要視し訴求し続けてゆきたいと考えます。

そのために必要な重要事項の一つは大学における情報システムに関する教育です。
特に大学初年度に理工系だけでなく文系含めて、この情報システム学の考え方に基づいたガイド、教科書が求められます。今回は、昨年（2021 年）12 月に開催された当学会の第 17 回全国大会で発表されました論文を紹介し、ご活用を推薦いたします。

論文番号：P007、論文タイトル：22 年間持続する教科書の基盤になった情報システム学
発表者：魚田勝臣（専修大学名誉教授）
URL：https://www.issj.net/conf/issj2021/data/issj2021_program.pdf

本論文で説明されている教科書は、1998 年に刊行した「コンピュータ概論－情報システム入門」であります。初版から 22 年間に渡り第 8 版まで、「社会や組織の仕組みを情報システムと捉えて改革する」、このことを一貫して教える教科書を編纂して、その考え方を伝播してきています。また、改版により、教科書の客観性と多様性を追求する仕組みを創出してきています。（教科書は本文 262 ページの書籍で、CD も有ります。）

以上、小生の意見ですが、新情報システム学体系調査研究委員会（通称：体系化委員会）を始めとして、本論文と教科書の活用、実践に関して施策を検討、推進して参ります。
ぜひ、情報システムに関わるより多くの方々に理解いただき、ひいては、日本の国際競争力向上、国民の幸福度向上につなげてゆきたい所存です。
よろしくお願い申し上げます。